

第2部 先行研究に見る訓練方法

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラムの	カリキュラム	指導材料作成	指導の展開	訓練の評価	教イデ心理	引用文献	引用文献	引用文献
1	職業訓練における理論と実際	職業訓練指導員免許取得48時間講習のテキスト。指導技法全般と職業能力開発促進法等に関する解説がなされている。	○	○	○	○	○	○	○	○	厚生労働省職業能力開発局 監修 職業訓練における指導の理論と実際 職業訓練教材研究会 平成14年3月		
2	PROTS	教育訓練のサイクルを中心に、訓練プログラムを計画する。各段階に必要な具体的な手法を提示している。教育訓練サイクルは、1.訓練コースの設定、2.コース目標の設定、4.カリキュラムの作成、5.教材の作成、6.訓練の実施、7.訓練の評価となっている。	○	○	○	○	○	○	○	○	PROTSと人選り、海外職業訓練協会、1992.3		
3	CRI技法	研修を計画し実行するための技法。4.分析、2.開発、3.実施、4.改善の4段階それぞれに具体的な手法を適用して、確実に成果の上がる研修を計画しようとする。	○	○	○	○	○	○	○	○	ロバート・エミール・ガリ、CRIT技法、日本電気インターナショナル・レーニン、1996.2.19		
4	技術後継のための学習指導手法	技術後継に活用する指導手法を整理した資料集。内容は、1.学習の基礎、2.諸分析、3.学習目標、4.レクチュアリング、5.コーチングで構成されている。	○	○	○	○	○	○	○	○	国際協力事業団国際協力総合研究所、技術後継のための学習指導手法、昭和62年6月		
5	職業訓練基準による技能教育指導の実践	職業訓練指導員を長く実践した著者の経験を職業訓練の現場の広い場面について編纂したもの。当時の指導員免許を取得するための35時間講習のテキストとして活用された。内容は、1.職業訓練法、2.訓練計画、3.訓練方法、4.試験をカバーしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	波多朝、職業訓練基準による技能教育指導の実践、1959.7		
6	作業指導のやり方	作業研究連盟RBPがまとめた、作業研究の基礎と方法を示す出版物の一つ。作業指導のやり方として、作業指導の一般知識として、習得過程の本質、習得過程の諸法則を示した後、作業指導の準備と実施方法を示している。	○	○	○	○	○	○	○	○	RBP編纂委員会編、作業指導のやり方、日本能率協会発行、昭和40年		
7	T.T.T	アレクサンダーの両氏によって開発され、日本に昭和23年に電通省・文部省に採用研究された指導技法。知識、技能を性格に能率的に指導するための教育訓練技術。作業分析、指導案、補助教材、視覚教材、視覚教材、指導票、指導者用手引き、ラスト問題などが整備されており、教材の活用を重要視し、教後の段階を1準備、2提示、3応用、4試験、5討議に整理している。	○	○	○	○	○	○	○	○	波多朝、職業訓練基準による技能教育指導の実践、1959.7	日本労働者教育協会、産業教育における訓練の仕方、昭和26年9月	
8	ABB方式	学習の確実な成立に對して問題を有しているプロシエト法の欠点を補う手法。單元毎に課題票、指導票、視覚教材、教具、指導者用手引き、ラスト問題などが整備されており、これらを課題毎に進めてゆく。これら課題と習得すべき作業を結びつけ、習得すべき作業がどの程度習得されているかを示す。	○	○	○	○	○	○	○	○	波多朝、職業訓練基準による技能教育指導の実践、1959.7		
9	システムズ・アプローチ	情報科学やエレクトロニクスの発展のために、現象をより数量的に精密に記述し構成し、制御できるように、最も効果的な制御を実現した。それと類似するシステムズ・アプローチと呼ぶ。教育方法の諸問題をシステムズ・アプローチにより考えようとするもの。	○	○	○	○	○	○	○	○	教育方法教師養成研究会、卒業論文選集、昭和三十四年		
10	教授システム設計	ガニエ、ブリンズが提唱した、教授設計へのシステムアプローチの適用。要求分析、選択可能な実施システムの分析、カリキュラムの構造と系列化、コース目標の分析、実行目標の決定、授業計画の作成、教材の開発と選択、生徒の先行評価、教師の準備、形成的評価、実地試験修正、総括的評価、設定と普及、の14段階で進められている。	○	○	○	○	○	○	○	○	R.M.ガニエ、エドワード・ブリンズ、カリキュラムと授業の設計、1994.7 北文館書房		
11	教育システム論	教育をシステムとして捉える考え方。システムにさまざまな考え方はある。例、解析的・機械論としての性質、機能的・効率的システムの一般的特性のひびくことである入力・出力の対応性、全体的・有機論としての性質、未来志向的・目的論的・有機論としての性質。	○	○	○	○	○	○	○	○	木原徳次郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.19	井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.12	
12	教育工学	教育の目標を達成するために、教育の中にも、教育の効果を上げようとする研究、効果的かつ実践的な方法を開発する学問。(坂本順)	○	○	○	○	○	○	○	○	井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.12		

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラム設定	カリキュラム作成	指導の展開	訓練の評価	教育心理	引用文献	引用文献	引用文献
13	ホモオスタシス	学校教育のシステムが、自己の平衡を保つ側面と、学校の中で行われる活動が平衡を保つ側面とに期待する。	○							木原義次郎, 現場の授業理論, 明治図書出版, 1976.20		
14	アフレンドの教育哲学分類	保守主義的選択: 新しい信念を慎重に検討し、検討した後に、やはり自己の既有的信念は健全であり、いかなる変化に対しても保守するに傾くとする立場。自由主義的選択: 既有的の毛の新しいものを検討し、意図的なものがあるいは、修正すべきは修正して選択するという立場。復古主義的選択: 新しいものを検討して既成のもの、古いもの良さを忘れなからずとして、古いものを復活させようとする立場。急進主義的選択: 新しいものはこれまでのものに比べて優れているとして、新しいものに置き換えようとする立場である。	○							井上弘, 講座現代教育の論争点1, 教育内容・方法, 教育開発研究所, 昭和51.5.13		
15	大教壇学における凡知体系	それを全てのもが等しく共有することによって互いの偏見を捨て去り、相互に理解し合えるようになることが目指される。人類の知的遺産の体系。	○	○	○	○				柴田義松, 教育の方法, 学文社, 1995.4.23		
16	未来の学校	教育を計画する者は、(1)自らの行動を導いて行くに必要の技能を体得すること、(2)社会的であるとともに経済的・政治的・科学的な過去からの遺産についての理解を持つこと、(4)社会に参与できること、を期待している。いまの時点でこれを検討することが、未来の学校を考察ことにつながる。という見方。	○	○	○	○				木原義次郎, 現場の授業理論, 明治図書出版, 1976.18		
17	文化的絶対主義・文化的相対主義・文化的普通主義	文化的絶対主義: 教育の目的は、社会全体の目指す確固たる不動の目的であるとする立場。文化的相対主義: 社会全体に共通の目的は存在しない、個人や自己がが自らの最高決定者であるとする立場。文化的普通主義: 社会が一般的共通の信念を持つていて、それを目標として設定する立場。	○	○	○	○				井上弘, 講座現代教育の論争点1, 教育内容・方法, 教育開発研究所, 昭和51.5.11		
18	教育的教授	教授の目的は、学問的知識を伝達することではなく、教授することを通して人間を教育することであるとするヘルバルトの考え方。	○	○	○	○				井上弘, 講座現代教育の論争点1, 教育内容・方法, 教育開発研究所, 昭和51.5.20	教育方法, 教師養成研究会, 学芸図書株式会社, 昭和52年	
19	現在カリキュラムと潜在カリキュラム	学習指導要領等に基づく公式な学習内容が顕在カリキュラムである。これに対し、学校制度・組織・校風・友人・教師と学習者の相互の働きかけにより学習者が間接的に受ける影響がある。このように隠されたカリキュラムは「潜在カリキュラム」と呼ぶ。	○	○	○	○				柴田義松, 教育の方法, 学文社, 1995.4.41		
20	カリキュラム開発の工学的方法	カリキュラム開発に2つのアプローチがあるとする考え。工学的方法は、教育の目標に対して、下位目標を明確にし、これらに到達するための教育を検討するという分析的な手法をとる。羅生門的方法は、教育目標に対して専門性を有した指導者が指導を行う。その中で習得されたものを評価するという方法。	○	○	○	○				文部省, カリキュラム開発の課題, 大阪府印刷局, 昭和50.5.1		
21	実質陶冶・形式陶冶	実質陶冶: 教授の目的はありとあらゆる知識の全てを伝達することにあるという考え方。形式陶冶: 一般的な能力(推察力・洞察力・判断力など)を鍛えればその能力が他のいかなる知識を学習するときにも転移し、自らの力で容易に学習できるようになるという考え方。	○	○	○	○				井上弘, 講座現代教育の論争点1, 教育内容・方法, 教育開発研究所, 昭和51.5.14		
22	大教壇学における普遍的な技法	感官の訓練→個別知識の獲得→系統法による普遍的知識の獲得→判断形成、というプロセスを踏む発展系列の原理に立脚した教授法。	○	○	○	○				柴田義松, 教育の方法, 学文社, 1995.4.24		
23	合自然	「能力と器官の内面的発展=自然の教育」にこの発展をいかにも利用すべきかを教える=人間の教育」, 「私たちを刺激する事物について私たちが自身の経験が獲得する=事物の教育」を促す教育。子供の時期に慎重に配慮して身体-感覚の訓練に従事させる。消極教育とも呼ばれる。ルソンの教育論。	○	○	○	○				柴田義松, 教育の方法, 学文社, 1995.4.25		
24	児童中心カリキュラム	社会の持つ文化遺産を一定の教科群に整理して設定した教科を指導する=教科カリキュラム」に対して、経験を中心に教科を組み立て、経験と教科の関係を自覚してゆくようにする。	○	○	○	○				柴田義松, 教育の方法, 学文社, 1995.4.33		
25	教育における最小必要量の測定	教育内容は、社会生活の中からは、教育に對する社会的必要を測定して編成しなければならぬと考へて、社会的必要を測定し、それを取り出す方法。	○	○	○	○				教育研究センター, 昭和61年		

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プロシユラ定スラムの	カリキ作成ラム	指導の展開	訓練の評価	教ガイ青心理・	引用文献	引用文献	引用文献
26	活動分析	成人の営む社会生活の実態を分析し、そこから教材を決めることが試みられた。		○						教科研究方法資料Ⅲ、職業訓 練研究セ ンター昭和62年		
27	職業分析(作業分析)	活動分析を職業生活、生産活動の分野に適用したもの。		○						教科研究方法資料Ⅲ、職業訓 練研究セ ンター昭和63年		
28	職務分析	職業分析の分析要素を多方面に広げた分析手法、職務に関する知識、精神的な働き、器用さ、正確さを分析し、その後、作業者の所要資格、身体的条件、経験、訓練、身体的条件、身体的条件、身体的条件、身体的条件に及ぼす影響を分析する。		○						教科研究方法資料Ⅲ、職業訓 練研究セ ンター昭和66年		
29	プロジェクト・メソッド	児童中心カリキュラムの具体的実践として、キルパトリック(W.H.Kilpatrick)が開発した。問題解決法の立場から発展した学習法。社会的環境の中で行われる全身を打ち込んだ、目的的に進めた活動。一定の問題を①明確な目的を持ち、②意味のある価値ある単元を、③生徒自ら計画し、④実践的な活動によって解決する。					○			柴田義松、教育の方法、学文 社、1995.4.34		
30	コアカリキュラム	①中心となる教科や課程をコアとして持ち、②コア以外の教科や課程をコアとの関連の元 に位置づけたいカリキュラム。この原型は、テイラーの中心統合法に見られる。コアカリキュラ ムの発展は、教科目が増えたりそれとそれと多様な知識を無秩序に詰め込む状況に対する 一つの解となる。ティューイーの経験カリキュラム、国語で学んだ作品内容を図工で表現す るような相関カリキュラム、地理・歴史・政治・経済を社会に統合する広領域カリキュラムな どが、類型である。					○			柴田義松、教育の方法、学文 社、1995.4.36		
31	学習性中心カリキュラム	知識を単に羅列的に教えるのではなく、学ぶ価値の高いものに重点を置く。それぞれの学 問の中心になる。概念1考え方一基礎的な固有の概念を重視する。このような概念など を、構造と呼ぶ。フルーナーは構造を学ぶことで、①教科の内容を理解しやすくなる、②細 かな知識を記憶する必要はなくなる、③その後の学習で学ぶことを特殊な事例として理解 できる、④先に学ぶことと後に学ぶこととの間のギャップをうめることができる、とした。					○			柴田義松、教育の方法、学文 社、1995.4.37		
32	経験カリキュラム	知識は人間が生活の問題を解決するときの道具であるとして、「生活の現実の問題」に よって構成されるカリキュラム。コアカリキュラムは生活の現実の問題を中心とした課題とし、 教科の存在をかためることから、両者の折衷案と見られる。					○			井上弘、講座現代公教育の論 争点1、教育内容・方法、教育 開発研究所、昭和51.5.16		
33	教科カリキュラム	学習の体系をほぼそのまま教科の体系とし、各論的知識を系統的に教え込むに過ぎた カリキュラム。					○			井上弘、講座現代公教育の論 争点1、教育内容・方法、教育 開発研究所、昭和 51.5.17		
34	中心統合法	歴史・文学・宗教など様々な教科を定め、これを中心に各教科のカリキュラムを配列する 方式。					○			井上弘、講座現代公教育の論 争点1、教育内容・方法、教育 開発研究所、昭和 51.5.16		
35	クロスカリキュラム	諸教科を背景にある一定の主題、テーマの設定から、可能な限り他教科の内容と関連づ けながら、各教科の内容自体を深めつつ、設定した主題、テーマを広い関連で追及する もの。教科教育の深さを総合的テーマの学習によって中を持たせ、一教科の中で取り 扱えないテーマで知識、技能を習得させようとするものである。					○			天野正輝、総合的学習のカー キュラム創造、ミネルシア書 房、2000.5.30		
36	仕事を中心とした学 校生活	仕事(労働力)を提供して資金を得る「lab Our」でなく、心を対象に没入させ、対象と取り組 む「Occupay」を学校に取り入れ、これを中心に具体的な技能や知識を習得することを目 指した。					○			柴田義松、教育の方法、学文 社、1996.4.32		
37	二層四領域論	①日常的な学校生活そのものからなる「生活実践課程」、②生活実践課程を問題解決学 習によって扱ふ「生活実践課程」、③知識・技能の学習を行う「基礎課程」という三層と ④「身体(健康)、⑤自然(経 済)、⑥社会(政治)、⑦表現(芸術)」という四領域を組み合わせた学習。コアカリキュラムの研 究開発成果としてコア・カリキュラム連動が1951年に発表された。					○			柴田義松、教育の方法、学文 社、1995.4.40		

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プロセスの	カリキュラム	指導資料作成	指導の展開	訓練の評価	教育心理学	引用文献	引用文献	引用文献
38	オペレーション法-ロシニア法	任意の労働過程を科学的に分析し、そのなかでもっとも典型的で重要な構成要素である作業作業と方法を分離し、それを教えられるべきならならという提案。この分析された要素を道具の使用法と作業の構成要素の組織し、これを難易の程度にしたがって配列した。									教科研究法資料Ⅲ、職業訓練研究センター昭和58年		
39	作業分析(アレン法)	ロシニア法の影響を受けて、アメリカで機械工の作業の分析を行い、この方法が作業分析として定式化した。									教科研究法資料Ⅲ、職業訓練研究センター昭和59年		渡多朝、職業訓練基準による技術教育指導の実際、1959.7
40	時間研究	テーラーの科学的管理法の基礎。各作業を、それを構成する要素動作に分析し、各要素動作に必要な時間を適正な条件のもとで測定しそれを総合して一日の公正な作業量を決定し、作業の標準的な方法を見だし、適正な賃金を設定しようというもの。									教科研究法資料Ⅲ、職業訓練研究センター昭和60年		
41	作業分析(セルヴィツジ法/ブランクランド)	職業分野・職種をいくつかのプロックに区分し、その中からオペレーションと関連知識(技術的知識、一般的知識、職業指導的知識)を抽出する。これを縦軸に並べる。次にプロックの代表的な仕事を横軸に並べる。そして仕事とその仕事を構成する縦軸の要素との交点に丸印を付す。最後にもっとも多くの仕事に適用される要素から順に縦軸を並べ替え、最も少ない要素で作業できる仕事から順に横軸を並べ替える。将来熟練工となるべき者の教育、学校教育に適していると言っていることができる。									教科研究法資料Ⅲ、職業訓練研究センター昭和64年		
42	オペレーション法=複合	オペレーション法の欠点を補う目的(オペレーションが抽象的で学習者にとって興味のないものではない)に対応するための改良法。2-3の基本的なオペレーションを学習した後に、そのオペレーションを複合して適用し、簡単な製品を製作する作業に移る。その後、再度オペレーションを学、S.M.時間を設定して新しいオペレーションを学ぶ。そして、それまでに学んだ全てのオペレーションを活用して製品づくりに移る。という方法。									教科研究法資料Ⅲ、職業訓練研究センター昭和65年		
43	行動分析	指導-学習目標を明確にするために、行動を観察分析し何ができていなければならないのかを抽出する。旧課程の設定、2.表現行動の観察記録、3.制訂行動の分析(意味分析)、4.要素行動の分類・整理、5.要素行動の構造化・単位行動の抽出、の順で行う。									小林一也、工業教育の理論と実践、英教出版昭和58年10月	職業訓練大学校調査研究部、行動分析に基づく訓練システム設計の仕方調査、研究資料25号、昭和52年	東洋、教育・学習システム、大日本図書、昭和50年
44	目標分析	学習・指導の目標として、ある行動(目標行動)を設定し、その目標行動は「何が、何によって、どの程度でできるようになるか」を表現する。また、その目標行動をステップに分解したとき、そのステップ毎にどのような目標行動があるかを分析する方法。									小林一也、工業教育の理論と実践、英教出版昭和58年11月		
45	論理分析	指導-学習目標を明確にするために、行動に必要な要素行動を論理的に分析してゆく方法。1.目標行動の設定、2.目標行動の「全」の場合の列挙、3.下位目標行動の決定、4.下位目標行動の形成関係図作成、5.全体の形成関係図の作成という手順で行う。									小林一也、工業教育の理論と実践、英教出版昭和58年11月		
46	クリニック方式	実際の職場でOJTにより習得した技能には、偏りが見られることから、OJTで習得し得なかった技能を診断し、その部分だけを自主研修を中心に習得しようとする訓練方式。									厚生労働省職業能力開発局監修、職業訓練における指導の理論と実践、職業訓練教材研究会、平成14年3月		
47	創造性の教育	学習性中心カリキュラムを実践するための例(1)問題に対する感受性、(2)流暢性、(3)柔軟性、(4)独創性、(5)再定義の能力、(6)准能力を確かめようとする試みと、創造性の一定の前提のもとに、その能力を高めるための指導方法の実践。									木原健次郎、現場の職業理論、明治図書出版、1976.9		
48	発見学習	学習性中心カリキュラムを実践するための学習方法。ブルルナにより提唱された、徹底的な教授法ではなく構造的な教授法といわれる。科学知識を「問題」の形に組み直し、問題を学習者に投げかけ、考え、学習者自身に結論を発見させようとする授業過程である。第一段階:問題把握、第二段階:仮説の設定、第三段階:仮説の検証、第四段階:仮説の肯定=問題解決、という段階を経る。日本では、仮説実験学習と呼ばれているものである。									栗田嘉松、教育の方法、学文社、1995.4.38	井上弘、職業現代公教育の論争点1.教育内容-方法、教育開発研究所、昭和51.5.19	

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラムの決定	カリキュラム作成	指導資料作成	指導の展開	訓練の価値	教材心理学	引用文献	引用文献	引用文献
49	ウイネット・プラン	個別学習の試みのひとつ。共通必修科(算数・国語など)と集団的・創造的活動とに教科を分け、共通必修科については、自学を行う。共通必修科の教科は、細かく単元が分かれており、それぞれの単元の到達目標が明確に示される。学習者はこれを学習し、自分が目標に到達したと思われたときに指導者の設定を受ける。設定されると、次の単元にすすむ。というように、一人ひとり学習進度に対応する。									井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.23		
50	ダルトンプラン	ウイネットプランと同様に、個別学習を進める方式だが、自己学習の進め方に一定の枠をかける。1ヶ月ごとに学習する内容をあらかじめ設定し、これをその期間で学習する形をかける。									井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.24		
51	仮説実験授業	科学上の基本的な諸概念、法則を指導するに際して、生徒に仮説を出させ、それを吟味した上で実験によりこれらの仮説の検証を行うという組み立ての授業形態。注入的な教授に対し、動機付け、能動的学習を促すこと、個人による理解の視点を集団思考により克服する等の特徴がある。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.46	水原健次郎、現職の授業理論、明治図書出版、1976.17	
52	問題解決学習	戦後初期の日本児童中心カリキュラムとして日本で短期間実験された。根底には、デュエインの経験主義の教育思想がある。具体的には、①困難の偶然とした自覚、②困難点の明確化、③仮説の立案、④仮説の検討、⑤仮説の実施と結果、という概念で学習を進める。その特徴は、①学習者の自発性を学習の契機とする、②教師の指導は間接的なものとする、③教員ではなく学習者指導、④知識の体系ではなく問題解決の課程にある学習を学習する意義のあるものと見なす。この点が系統学習と対立する。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.35		
53	プログラム学習	一定の学習の筋道に沿って、教材と学習の手順を編成した学習プログラムに基づき、学習者に学習させる方式。その基本原理として、①教材内容の操作系列の細分化明確化、②オペラント行動を活用し、③自己学習の確認(フォードバック)、④学習の個別化、⑤学習者検証の原理(学習の効果があらがらないのはプログラムが悪い)									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.45	木原健次郎、現職の授業理論、明治図書出版、1976.17	
54	オープンスケール	時間制や教室一斉指導にとわかれず、学習者が学習したいことを個別に学べる仕組みと空間を整備した学校のことである。具体的には、学習者個人が個別に学習計画を作成し、これに基づいて集団学習と個別学習を組み合わせて、学習を進めてゆく形式で実現している。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.43		
55	範例方式(範例学習)	ある事象を理解しようとする、複雑なことはいくつかの根本形式の組み合わせにすぎないという観点から、学習では、こうした「本質的な、もしくは根本的な存在」に目を向かせざる必要がある。そこで、範例を示しそこから何を導き解くかを重視する指導の形態。									木原健次郎、現職の授業理論、明治図書出版、1976.17	教育方法、教師養成研究会、学芸図書株式会社、昭和52年	
56	完全習得学習	大集団授業改善システムのひとつ。習得が達成されるまで、各単元学習に続いて診断試験を行い必ずフォードバックが行われるように、教授単元が管理される。各単元に明確な目標を設定され、学習の後には目標を達成しているかについての判定テストを受ける。目標を達成すれば、内容豊富化の単元に進み、目標を達成していない場合は、付加的な教授を行う。そして、全員が一定の目標を完全にクリアすることを目指す。									井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.10	井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和52年11月	
57	能力別学習	個人差に応じた教授を実現するため、学級の進め方を工夫するさまざまな試み、パワープラン、学級の目標を大きくして教員を2名配置し、通常の進級の学習者と進級の遅い(早い)学習者の双方に対応する形式、セントルイスプラン1年ごとに進級させるのでなく、3ヶ月ごとに小刻みに進級させる方法、ニューケンブリッジプラン、修業年限を学習能力によって変え、6年で終了するものがあるが、この3つは、通常の進級の学習者と能力別のテストにより、能力差に応じたコースを終了させる方式。									井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.22	井上弘、講座現代公教育の論争点1、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和52年11月	
58	モジュール訓練	職業訓練において学習者の随時入校、随時終了に対応するために導入された訓練方法。訓練内容を細かなモジュールに分割して用意しておき、学習者個々が、必要に応じてモジュールを選択して訓練を受ける方式。	4								厚生労働省職業能力開発局 監修、職業訓練における指導 訓練教材研究会、平成14年3月		

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラムの決定	カリキュラム	指導準備	指導の展開	訓練の評価	ガイダンス	引用文献	引用文献	引用文献
59	T.W.1										遊多朝 職業訓練基礎による技能教育指導の実践,1959.7		
60	ティーチングマニ	一斉授業による標準(学習進度の違いへの対応困難)の克服を目指し、学習の成果に対応して次の学習内容を示したり、反復学習をするための装置の総称。									本原健次郎,現場の授業理論,明治図書出版,1976.10		
61	プランニング・プログラ	プログラム学習によるプログラムを単線式ではなく、学習者の理解に応じて複数式にするプログラム。									本原健次郎,現場の授業理論,明治図書出版,1976.11		
62	各科教授	戦後のドイッで行われた教育の方法。具体的で直感的な事実單元を中心に授業を行う。教科の枠を取り外しておいて、中心とする單元から分化して各教科の内容に入る場合もある。コアカリキュラムの場合は、中心となる單元を生活の中にも求めたが、各科教授の場合は、教科の知的体系の中に求めた。									本原健次郎,現場の授業理論,明治図書出版,1976.16		
63	作業学習	単にテキストを読むだけでなくワークブックを読み書き込み作業、のように具体的な作業を学習に取り込む形態。学習者が職業による受動的な立場に置かれるのではなく、さまざまな作業を通じて能動的に学習に取り組む工夫をすること。各教科の中でワークブックのように作業を課すという方法と、作業科のような教科で社会的な活動を行うという方法とがある。									本原健次郎,現場の授業理論,明治図書出版,1976.14		
64	教材の構造化	さまざまな教育内容を順に学習するのではなく、全体の構造を示すことで、学習を援助しようとする方法。ある主題について、文章で説明がなされているときに、それを図説することなどで、理解しやすくするなど									本原健次郎,現場の授業理論,明治図書出版,1976.15		
65	システム	科学の系統的知識からなる教科カリキュラムをとり、そのカリキュラムを構成する教材單元を教師が提示し、往々に伝達する学習。									井上弘,講座現代公教育の論争点I,教育内容・方法,教育開発研究所,昭和51.5.15		
66	定位・権衡的教授	範例学習を補充するための教授法。範例教授には時間がかかり、連回りや知るべきことに隙間が空くことがあることに対して補充しようとする教授方法。									教育方法,教師養成研究会,学習図書株式会社,昭和52年		
67	授業を構成する三要素と授業の意義	授業を構成するのは、①学習者、②学ばべき内容の媒介となる教材、③意図的に働きかけ見守る教師とする立場。教師の役割は事象を伝えるだけでなく、その背後にある視点の持ち方、おもしろさを伝えることにより、文化の本質を学習者自身になじませ、力として実感できるようにすることである。									柴田義松,教育の方法,学文社,1995.4.47		
68	教科書を「教える」教科書を「教える」	教科書の目的として「教科書を絶対視する考え」と、学習者の目的に応じたり、実社会での生活に必要な能力のすべては、教科書には内という考えから教師が教科書を再編成して授業過程を構成するという考えを示している。									井上弘,講座現代公教育の論争点I,教育内容・方法,教育開発研究所,昭和51.5.21		
69	作業分解	対象となる作業を指導するために、その作業に含まれている手順やカンどころを整理するために、指導員自身が自分のメモとして作成する。									遊多朝 職業訓練基礎による技能教育指導の実践,1959.8		
70	インスタレーション	作業分解の結果をまとめ、学習者に提示する教材。①作業指導票(Obsheet)、②要素作業指導票(Operat(O)nsheet)、③関係知識指導票(Unif(O)mat(O)nsheet)、④課題指配票(assignment sheet)、⑤実験指導票(experiment sheet)がある。									工業技術教育法,教訓昭和47年11月20日	遊多朝,職業訓練基礎による技能教育指導の実践,1959.8	
71	学習指導案	①授業者としての教師の自覚を明らかにする、②教師の意図的な働きかけを計画する、③誰もが授業計画を共有する									柴田義松,教育の方法,学文社,1995.4.48		

No	名称	概要	システム	イメージ	プログラムの	カリキュラム	指導性	指導の展開	訓練の評価	教育心理学	引用文献	引用文献
	教材研究	①教材の形にすること、②学習者の視点からその教材の効果を高めること、③教材の効果を高めること、④教材の効果を高めること、⑤教材の効果を高めること、⑥教材の効果を高めること、⑦教材の効果を高めること、⑧教材の効果を高めること、⑨教材の効果を高めること、⑩教材の効果を高めること、⑪教材の効果を高めること、⑫教材の効果を高めること、⑬教材の効果を高めること、⑭教材の効果を高めること、⑮教材の効果を高めること、⑯教材の効果を高めること、⑰教材の効果を高めること、⑱教材の効果を高めること、⑲教材の効果を高めること、⑳教材の効果を高めること、㉑教材の効果を高めること、㉒教材の効果を高めること、㉓教材の効果を高めること、㉔教材の効果を高めること、㉕教材の効果を高めること、㉖教材の効果を高めること、㉗教材の効果を高めること、㉘教材の効果を高めること、㉙教材の効果を高めること、㉚教材の効果を高めること、㉛教材の効果を高めること、㉜教材の効果を高めること、㉝教材の効果を高めること、㉞教材の効果を高めること、㉟教材の効果を高めること、㊱教材の効果を高めること、㊲教材の効果を高めること、㊳教材の効果を高めること、㊴教材の効果を高めること、㊵教材の効果を高めること、㊶教材の効果を高めること、㊷教材の効果を高めること、㊸教材の効果を高めること、㊹教材の効果を高めること、㊺教材の効果を高めること、㊻教材の効果を高めること、㊼教材の効果を高めること、㊽教材の効果を高めること、㊾教材の効果を高めること、㊿教材の効果を高めること、									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.49	
72	教科書の基本的機能	①学習者にとって価値ある意味を選択し、伝達する情報機能、②系統性学習者が自分の知識を構造化し体系化するのを助ける構造化機能、③学習指導機能、④学習者の興味を喚起する機能、⑤学習者の理解を促進する機能、⑥学習者の思考を刺激する機能、⑦学習者の表現力を高める機能、⑧学習者の創造性を高める機能、⑨学習者の協力を促す機能、⑩学習者の責任感を高める機能、⑪学習者の自主性を高める機能、⑫学習者の学習意欲を高める機能、⑬学習者の学習態度を高める機能、⑭学習者の学習習慣を高める機能、⑮学習者の学習能力を高める機能、⑯学習者の学習成果を高める機能、⑰学習者の学習態度を高める機能、⑱学習者の学習能力を高める機能、⑲学習者の学習成果を高める機能、⑳学習者の学習態度を高める機能、㉑学習者の学習能力を高める機能、㉒学習者の学習成果を高める機能、㉓学習者の学習態度を高める機能、㉔学習者の学習能力を高める機能、㉕学習者の学習成果を高める機能、㉖学習者の学習態度を高める機能、㉗学習者の学習能力を高める機能、㉘学習者の学習成果を高める機能、㉙学習者の学習態度を高める機能、㉚学習者の学習能力を高める機能、㉛学習者の学習成果を高める機能、㉜学習者の学習態度を高める機能、㉝学習者の学習能力を高める機能、㉞学習者の学習成果を高める機能、㉟学習者の学習態度を高める機能、㊱学習者の学習能力を高める機能、㊲学習者の学習成果を高める機能、㊳学習者の学習態度を高める機能、㊴学習者の学習能力を高める機能、㊵学習者の学習成果を高める機能、㊶学習者の学習態度を高める機能、㊷学習者の学習能力を高める機能、㊸学習者の学習成果を高める機能、㊹学習者の学習態度を高める機能、㊺学習者の学習能力を高める機能、㊻学習者の学習成果を高める機能、㊼学習者の学習態度を高める機能、㊽学習者の学習能力を高める機能、㊾学習者の学習成果を高める機能、㊿学習者の学習態度を高める機能、									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.44	
73	子供の持つ種類の興味	①対話やコミュニケーションへの興味、②探求、すなわち物事を探りたいという興味、③ものを造ること、つまり制作への興味、④芸術的表現への興味、⑤児童の活動的な成長にこれらを使いこなすデュエーの子供中心主義と呼ばれる教育論									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.31	
74	有意義受容学習	発見学習に反対する教授方法。有意義受容学習では、基礎的に必要な知識・事実の理解、概念、原理などを意味豊かに、学習者に受容させるという考え方を、この教材に使用している。教材の意味豊かさには、1.定義や用語を明確にする、2.具体的・経験的資料や類推を意味の獲得や明瞭化に役立つよう利用する、3.材料を学習者自身の言葉、経験的背景および概念の構造によって再構成する、4.教材分野の論理や哲学を明確に記述する、といったことが影響するといふ。									教育方法、教師養成研究会、学芸図書株式会社、昭和53年	
75	直観教授法	「感性的な直観から明晰な概念へ」という教授原則(基礎論的直観主義)にもとづく教育方法。ベネタロッチの直観教授法。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.26	
76	直観教授	個々の事物の観察、つまり感覚から認識を形成するという近代的教育法の原理。感覚で把握される具体的な事物や現象を通して、その事物や現象の本質を理解し、明確な認識に至らせるという方法。									五野江雅、教育方法の探求、泉洋書房、1996.8.10	
77	教授の4段階(認識過程の整理)	人間に認識過程を「明瞭→連合→統一」として整理し、その中心の段階を「ヘルバートの教授法」。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.27	井上弘、講座現代教育の論争点I、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.15
78	教授の5段階(認識過程の整理)	ヘルバートの4段階の明瞭を二分し、分析→連合→統一→系統→方法とした。ツァーのキャリア構成論-授業方法論。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.29	井上弘、講座現代教育の論争点I、教育内容・方法、教育開発研究所、昭和51.5.15
79	教授の5段階(認識過程の整理)	予備→提示→比較→統一→応用の5段階で教授方法を整理し、どの教科でも利用できることから、形式的5段階教授法とも呼ばれた。この段階で、子供の認識過程と離れて教授上の手続きを規定するものとなった。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.30	
80	教科の系統性	教科内容の指導は、学習者の認識発達に即して論理的に結びつく必要がある。という考え。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.42	
81	説明	①説明、②説明、③説明、④説明、⑤説明、⑥説明、⑦説明、⑧説明、⑨説明、⑩説明、⑪説明、⑫説明、⑬説明、⑭説明、⑮説明、⑯説明、⑰説明、⑱説明、⑲説明、⑳説明、㉑説明、㉒説明、㉓説明、㉔説明、㉕説明、㉖説明、㉗説明、㉘説明、㉙説明、㉚説明、㉛説明、㉜説明、㉝説明、㉞説明、㉟説明、㊱説明、㊲説明、㊳説明、㊴説明、㊵説明、㊶説明、㊷説明、㊸説明、㊹説明、㊺説明、㊻説明、㊼説明、㊽説明、㊾説明、㊿説明、									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.50	
82	質問と発問	知識の有無を確かめるための質問に対し、学習者の思考を促すための問いを発問と呼ぶ。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.51	
83	展開のある授業	授業の中に、教材、指導者、学習者の間に思考からくる矛盾や対立が起こり、これを克服した結果として新しいものが発見されたり未知の不明なものが出てきたときに、展開した授業と言える。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.52	
84	ゆさぶり	学習者の既存の知識を一時的に否定することで、その視点を揺さぶらせたり、見方の幅を広げさせること。その際、①何がゆさぶられ、何が動いていないのか、②どの方向にゆさぶるべきか、③その振幅は十分に大きいか、④ゆさぶりの後、何が残るのか、を吟味しておく必要がある。									柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.53	

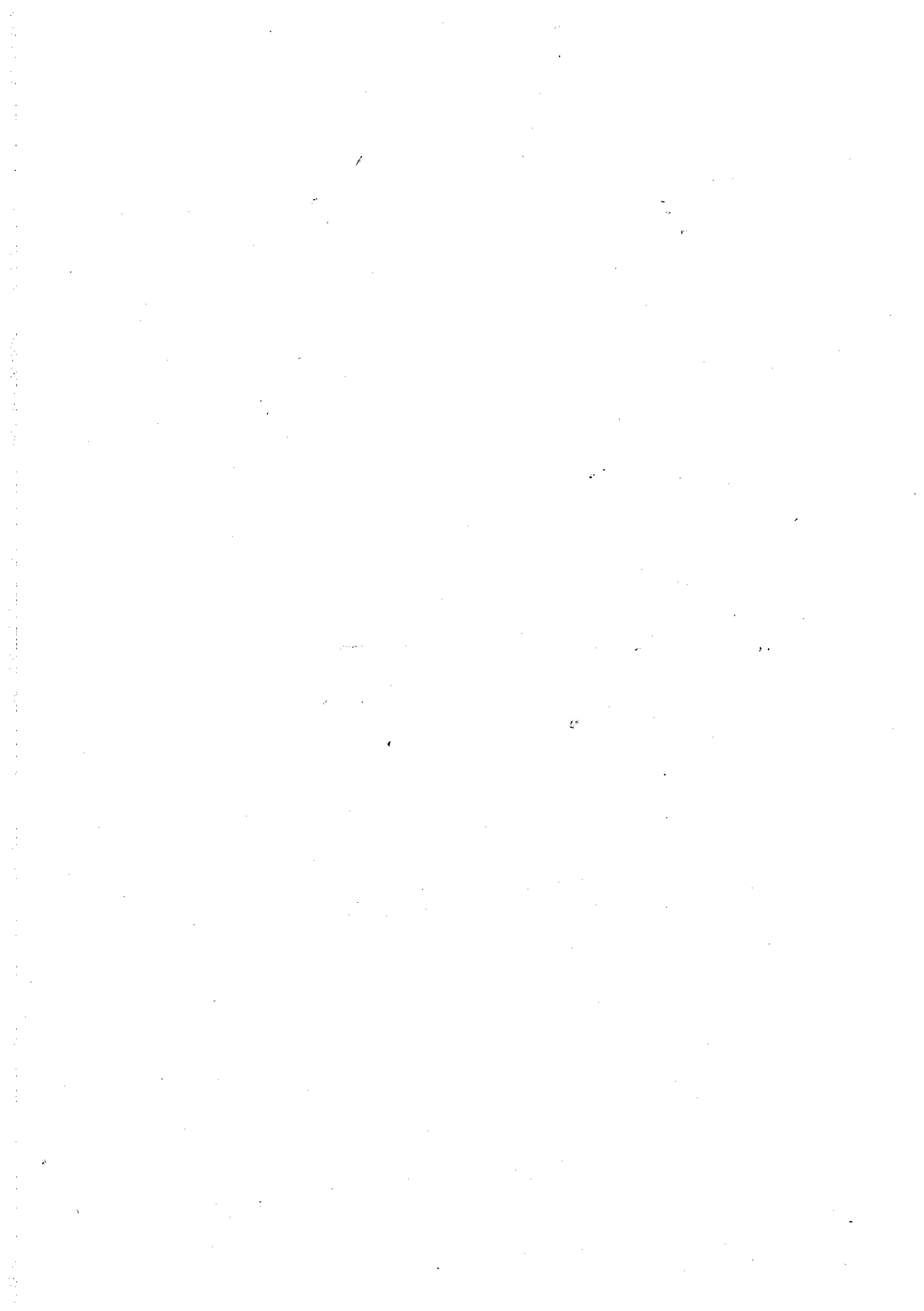
No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラムの	カリキュラム	指導資料作成	指導の展開	訓練の段階	ガイ	引用文献	引用文献
86	集団学習	効果主義の原理に基づき開発された一斉授業を起点としている。現在は、討議する学び方の重視、相互交流、さまざまな意見の対立と交流を通して正確で豊かな理解が尊重されている。①講義式の一斉授業、②グループ・小集団学習、③全体学習、④小集団学習、⑤個人学習を組み合わせた形態がある。						○		教育心理学	柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.54	
87	生活綴り方的教育方法	生活の事象を綴り方(作文)に整理することを通して、生活をリアルに見つめ、さらに、その内容を集団の中で生活主体としての見方や考え方を一層深めようとする。					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.55	
88	チームティーチング	複数の教員がチームを組んで、自らの専門性を生かしながら相互に協力しあい、一団の学習者を教える組織。指導の弾力化、指導者がオールマイティでないこと、自覚、閉鎖的な学級王国意識の剥奪除去、学習者の個人差への対応、適材・適所の効率的指導などが目的とされる。一斉指導では学習者個々の状態に即した指導ができない欠点を補なう。					○				玉野正嗣、教育方法の探求、見洋書房、1995.8.10、柴田義松、教育の方法	
89	個別指導	一斉指導では学習者個々の状態に即した指導ができない欠点を補う。①学習者全体にに対する説明・指示・発問の間に、個別の学習者の反応を見ながら個別に補足の指導を加える。②授業時間外で、進度の遅れを補足の指導を加える。このための、各種の方法。プログラムの学習も個別指導の一種といえる。					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.56	
90	学び方学習	学習の仕方を学ぶ学習					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.57	木原健次郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.17
91	集団づくり	集団づくりの意義は、学習者の自己指導力や自主管理能力を育てることにある。集団形成は、①短じつくり、②緩じつくり、③耐難じつくりの段階を経て行われる。その発展過程は、①より高い段階-集団の自立性をもち多くの矛盾を抱えている段階であり、指導者の主導性が不可欠な段階、②前断的段階-リーダーが着目リーダーが主導し、他のメンバーがそれをサポートし批判する段階、③後断的段階-集団全員が集団の動きに主導権を持つ段階、を経ていく。					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.58	
92	視覚教育	①学習への動機付けを高める、②新鮮さと多様性を与える、③多様な能力を持つ学習者にも訴求する、④学習者に行動的な参加を促す、⑤学習者に必要な強化を与える、⑥学習者の経験を広げる、⑦思考の段階での順序制と連続性を保証する、⑧他の教材の有効度を高める、等の意義がある。本質は、文字による抽象的な理解を超えて、具体的な体験を確率的に体験できていることにある。一方で、①フィクションを現実と錯覚させること、②陰影方法等で意図した内容を伝えることができる、③学習者が実体験を経験する可能性がある、④復習が容易でない、					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.59	木原健次郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.17
93	CAI	コンピュータを使って教授学習課程を制御し、指導者の教授活動ならびに生徒の学習活動を補助するシステムのことをいう。学習指導過程の記録と分析、成績処理、時間割作成等のマネジメントに利用される。					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.60	木原健次郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.17
94	GMI	コンピュータを使って教授学習課程に関わるさまざまな情報を処理して、教師の活動を支援するシステムのことをいう。学習指導過程の記録と分析、成績処理、時間割作成等のマネジメントに利用される。					○				柴田義松、教育の方法、学文社、1995.4.61	
95	シミュレータ訓練	模擬、仮装、見せかけの意味。現実の自然現象や社会経済的現象など似た状態や複合型モデルを作り、コンピュータによる計算によって機械的に演習や予測計算、意思決定などを行う。					○				能力開発技法一覧、アビリティャーガー・ブレンHP	
96	放送教育	放送による教育。視聴覚教材のひとつの形態として捉えることができる。放送そのものを弄した指導と捉えるか、放送を指導の一部、教材として捉えるかの立場がある。					○				木原健次郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.12	
97	フローチャート	指導案の書き方のひとつの方法、あるいは、学習者の学習手順を表現する方法として、工業分野で利用されるフローチャートを適用したモノ。					○				木原健次郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.13	
98	直感的思考と分析的思考	直感的学習の仮説の段階は、直感的思考により、結論を思いつくる段階であり、問題を把握し、仮説を検証し、仮説を肯定する段階は、分析的思考により確認を行う段階である。このように学習の中には、それぞれ別の思考が発揮される場面があることが示された。					○				井上正博、現代公教育の論争点、教育内務-方法、教育開発研究所、昭和51.5.25	

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラムの一般化	カリキュラム作成	教材制作構成	指導の展開	訓練の評価	教養心理学	引用文献	引用文献	引用文献
99	産婆術	対話により、議論を進め無知を知り、さらに真理に近づく。教師は問いを投げかけ、学習者が自らの力で真理に到達する手助けをする。ソクラテスの指示法。						○			梶田義松、教育の方法、学文社、1995.4.20		
100	弁論術	対話者の一方が他方を説き伏せるための「説得のための術」。ソクラテスが生きた時代の「ソフィスト」の対話術。						○			梶田義松、教育の方法、学文社、1995.4.21		
101	問答指示法	教師の「問」と生徒の「答」の交換の形式により、あらかじめ設定された答えに生徒を導く方法。ソクラテスの時代的教養の指示法。						○			梶田義松、教育の方法、学文社、1995.4.22		
102	板書	指導者側の発言や提示の整理として、①内容のまとめ、記述、キーワードのメモ、②学習対象の諸要素についての関係や構造の提示、③考察課題の明示、④考察材料・情報提供、⑤実験や実習の手順提示、⑥芸術上の手本の手順、⑦筆順や計算の過程、図形の書き方のプロセス、⑧口頭説明の視覚的な補足などに使う。学習者の発言や提示の整理として、①学習者の発言の整理、②宿題や課題に対する解答の記述、③芸術的な学習場面での文字や絵の表現などに使う。						○			梶田義松、教育の方法、学文社、1995.4.62		
103	机間巡視	一斉指導内での個別指導の目的で行う。①つまづき、②ノートが取れているか、③取り上げている事項の資料を見ているか、④支障した行動をとっているか、⑤授業に集中できない理由、⑥優れた活動の発見、⑦机間巡視の結果を一斉指導にフィードバックする						○			梶田義松、教育の方法、学文社、1995.4.63		
104	練習	技能習得のために、繰り返しその活動を行うこと。その目的には、①学習内容を理解すること、②技能の習熟がある。練習させる場合に目的を明確にする必要がある。学習内容の理解を目的とする場合は、①学習内容が直接現れている問題を選択する。②過度の量、時間を割かない、必要がある。技能の習熟を目的とする場合は、①学習内容の理解と別業時間以外の指導も計画すること、②ただし、①学習者の現在の能力でできることから入る。③成功したときは成功の喜び、失敗したときは失敗の原因を把握できるようにする。④学習者が練習の目的を自覚できるようにする。ことが必要である。						○			梶田義松、教育の方法、学文社、1995.4.64		
105	講義法	大勢の受講者を一堂に集めて、業務知識や管理知識などの理論や概念などをテーマにして、そのことを詳しく知っている講師が、その意味や内容、方法などについて、主として口頭で説明するという研修のやり方のことです。短い講義や解説の場合は、レクチャレメントまたはミニレクチャラーともいいます。						○			能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		
106	理解促進テスト法	学習の進行においてテストを実施し、その結果をグループ・アプロブ・アプローチによる相互高登といた形で表題するやり方。テストやドリルをグループの討論課題教材、ツール、インストラメントとする。そのテストは「理解促進テスト」、「CCテスト（コンセンサス・トラフィケーションテスト）」と呼ばれる。						○	○		能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		
107	キーワード連結	学習終了後の知識の定着を確認し、ふりかえりを行う方法。知識伝達型の学習において、学習したキーワードを自由に、思いいつくまま学習者に言わせ、そのキーワードの中から2つを選んで組み合わせて、学習内容に合わせた解説をさせる。この方法は、知識定着の確認とともに、学習全体の「ふりかえり」にもなります。						○	○		能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		
108	デモンストレーション	証明、実演、実物教育。言葉だけの説明ではなく、実物を見せ、実演を交えながら使い方を効果などを説明することを行う。言葉だけでは伝えきれない、劇的な効果を生むことがある。						○			能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		
109	体験学習法	グループ活動などの実際の体験の中からコミュニケーションやリーダーシップの能力向上をはかろうとする学習法。						○			能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		
110	相互学習法	教員のグループを編成して一つのテーマを設定します。そのテーマをいくつかのサブ・テーマに細分化して、それぞれサブ・テーマを各メンバーが分担し、調査や分析を行い、その結果をグループの会合の中で互いに発表し合います。発表された内容をめぐって互いに質疑応答や意見交換を行ない、このような相互高登や相互高登をくりかえすことなどで、ある学習目的を達成するやり方。						○			能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		
111	読書研究法	グループを編成し、チームの力を利用して、課題(読書)に取り組み、相互高登を高めること。「輪読」を応用したもので、数人でグループを編成し、ある図書を選定してそれぞれのメンバーが各自の解釈や意見を述べ合うことにより、内容の理解を深めるやり方です。						○			能力開発技法一覧、アビリティセンターHP		

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラムの設定	カリキュラム	指導者育成	指導の展開	訓練の評価	教養心理学的	引用文献	引用文献	引用文献
112	討議法	グループでのディスカッション(討議、話し合い)による学習方法。グループ討議は、つぎのよりに分類できる①非構造的なやり方、②課題討議法、③問題解決討議法、④発展的討議法、⑤その他						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
113	ロールプレイング	役割演技法。現実に近い場面を設定し、参加者に特定の役割を演技させることにより、上司と部下、セールスマンとお客など、それぞれ、相手の気持ちから演習したり、望ましい行動、基本動作などを体験的に習得させる方法。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
114	ウォークラリー	個人および集団の問題解決能力を野外でのグループによる集団行動を通して向上させようとする技法。集団活動の意義やチームワークの重要性を体得させる技法として、管理者、中堅社員、さらには新入社員向けの教育プログラムの一環として実施されている。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
115	ゲームチームアワーニング	①ラブラリールーミング系、②カウゼリング系、③事例研究系、④問題解決定常学習系、⑤心理療法系、⑥討議系、⑦社会教育系がある。会場の雰囲気に変化を持たせたり、受講者の研修そのものに対する興味、動機づけに効果があります。また、実体験により、具体的な理解が期待できます。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP 天野正広、教育方法		
116	ケーススタディ	さまざまな場面で起こりそうな具体的なケース(事例、事件、出来事)を素材として、個人またはグループで討議し、本質を究明し、問題点を分析したり、解決策を立案したりすることによって、問題解決能力や意思決定能力などを開発する方法。ものの本質の見方や考え方を訓練することをねらいとした研修技法のひとつ、「事例研究法」ともいう。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
117	インシデントプロセス	事例研究法(ケーススタディ)の一種。学習者に、発端となる小さな出来事(インシデント)のみ提示する。学習者は講師に質問することによって、その出来事の原因や、原因となる情報を収集し、それに基づいて問題を分析し、対策を考えてゆく。インシデント・プロセスでは、情報を収集しながら問題を解明していくプロセスに重点が置かれる。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
118	ビジネスゲーム	架空の会社を経営する経験を与えることによって、会社経営のあり方、経営管理能力等を学習する方法。経営幹部の戦略的意決定能力の開発や管理者・監督者の計数的管理能力の開発、あるいは営業マンのコンサルティング能力の強化等に活用される。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
119	インバースケッチ	決断を必要とする数多くの書類を受講者に与えて、限られた時間で次々と決断をさせていくことにより、受講者の思考や判断の能力を養成しようとする方法。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
120	ブレインストーミング	何人かが集まり、あるテーマをめぐって、既成概念にとらわれず、自由にアイデアを出し合い会議形式で問題解決の糸口を探る方法。「ブレイン(頭脳)で問題にアイデアを出すこと」です。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
121	イメージトレーニング	楽な姿勢をとり、目を閉じ、呼吸を整え、心身をリラックスさせて、軽い催眠状態になったところで、明確な肯定的イメージを訓練し、成功のイメージを形成することによって、精神の安定や集中、自己の行動や人間関係の改善、アイデアの発想などに役立っていく方法。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
122	KJ法	創造性開発または創造的問題解決の技法。アイデアや意見、または各種の顧客の現場から収集された雑多な情報を1枚ずつ小さなカード(紙切れ)に書き込み、それらのカードの中から近い感じのものを同じものを2、3枚ずつ集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していく。こうしたことから、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出すというものである。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
123	グループワーク	グループによる研修活動の一区切りセッションが終了したあとで、そのセッションのことを振り返って討議、検討するやり方。より具体的には、グループ活動の中でのメンバーの発言内容や相論など、いわばグループ活動の「中身(コンテンツ)」ではなく、グループの雰囲気やグループ活動に取り組んでいるメンバーの態度や姿勢について重点が置かれる。プロセスについて、グループ自身が気づき、成長を深めていくようにガイドするのがクリティクのねらい。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		
124	チェックリスト法	アイデアを発想する時、手がかりとなるチェックリストをもとに行うやり方。オズボーンのチェックリストと呼ばれる9項目が、代表。						○			能力開発技法一覧、アビリティアーガーデンHP		

No	名称	概要	システム	ニーズ把握	プログラム設定	カリキュラム作成	指導材料作成	研修の実現	訓練の評価	教育心理学	引用文献	引用文献	引用文献
125	強制連関法(フォースドリレーションジツブ)	一見、関連のない二つのものを強制的に関連づけていきながら、アイデアを生み出していく方法。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
126	焦点法(フォークスタド、オブジェクテクニク)	強制連関法の一つであり、関連のない二つのものを強制的に関連づけていく点では同じですが、進め方が系統的で複雑。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
127	アナロジー技法	すでに知っている知識を応用して、似たような新しい事柄について、多分そうではないかと推しはかることにより、ヒントが得られやすく、アイデアが生まれやすくと考える方法です。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
128	等価変換法	異なる二つのもの(たとえばAとB)の間に等価的なもの(共通点や類似点)を見つけ出し、それを手がかりに思考の流れをAからBへ変換させることで、飛躍的なアイデアの発想を得ようとするものです。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
129	フィッシュボール	あるグループ(たとえばAグループ)ともう一つのグループ(たとえばBグループ)とがペンを組んで、グループ同士で相互に啓蒙しながら進行する方法です。互いに相手グループの活動の様子を観察して、観察の結果など相互にフィードバックすることによって、グループ内動やコミュニケーションの把握能力を高めることをねらいとして行われる。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
130	フボトリートレーニング	プログラムもテーマもない独特なグループの中の自由な話し合い(フボトリートレーニンググループ)を通して、他人の感情や欲求を感じ取ったり、自分の言動が他人に及ぼす影響を感じ取ったり、他人の目を通して自己を洞察したりすることを体験を通して学習する。フボトリートレーニングはグループダイナミクスに焦点をおいて、リーダーシップの開発や組織開発を主眼としているものを指して使われることが一般的。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
131	メンバートレーニング	自己模倣し他人が自分を認める目的の間にスレを生じさせず、このようないつもの自分(自己認知)とはたまた目の自分(他者認知)とのスレを系統的に診断する方法。						○			能力開発技法一覽、アビリティHP		
132	考えさせる授業	デュエインの思考の方法の影響を受け我が国の授業研究の一つの課題。教科書の内容をそのまま教えるという機械的な授業に対抗するもの。思考する能力、特に推論に基づく判断ではなく、科学的な判断に基づく思考力を育てることが学習であるとしている。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.3		
133	授業のコミュニケーション	教育を①教育とは教える側の意図する方向に学習者を変化させる仕事である。②その過程を相対するものは、教師と学習者との間のプロセスを補完する必要がある。③そのプロセスは、教師と学習者のコミュニケーションのプロセスであると見る見方。この見方に基づき、さまざまな研究がなされた。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.3		
134	主体的学習	学習を進める手順の一形態。①学習者が自主的に課題を持ち、主体的に、他の学習者と連携して課題を解決するように学習する。②課題とともに、それを解決する方法を学習者に習得させることを重視する。③予習学習を学校で、学習は家庭で、学習結果を学校へ持ってくるというように、学校での授業と家庭での学習を相互に関係を持つて行う。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.4		
135	集団主義教育	生活に必要な能力、特に社会生活の中で起こる様々な問題を解決する能力を養成しようとする指導の方法。群やグループでの活動を通して、社会で様々な問題を解決するのと同じような方法で、問題を解決する方法、集団的な行動のスタイルなどを修得する。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.5		
136	自発協同学習	クラス全員で学習を自ら進める学習の形態。学習者自身が学ぶべきことは何かを定め、自らのやり方で、非同作業で学習を進める。教師は、教科の内容について説明をするよりも、学習の仕方、学習者の試行や至真活動を促進するための発言を行う。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.6		
137	小集団指導	一斉指導、個別指導、多人数形態との補充関係にある指導形態。バズ学習、ブレインストームリングなどの手法を包含する学習形態。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.7		
138	バズ学習	少人数による短時間の話し合い活動を中心に学習を進めてゆく方式。小集団学習のひとつの形態。集団心理学的側面から、一定期間の自由な討論が良いアイデアを拾い上げるのに有効との見解が授業の展開に適用されているといわれる。授業の過程で、動機付け、話し合わせ、内容の学習などさまざまな場面ですべて話し合いながら学習を進める。話し合いだけで学習が完了するのではなく、一斉学習、集団学習と組み合わせて学習を完了させる。						○			木原健太郎、現場の授業理論、明治図書出版、1976.8		

No	名称	概要	システム	システム把握	プログラムの	カリキュラム	指導材料作成	指導の展開	訓練の評価	教員心理	引用文献	引用文献	引用文献
139	形式的教授段階	ヘルバルトの4段階説、ツワイエーのカリキュラム構成論など、知的教養の過程に授業の過程を対応させる考え方。									井上弘講座現代公教育の論争点、教育内容・方法、教育開発研究所 昭和51.5.18		
140	オコンの教授過程	形式的教授段階論のひとつ。第一段階「教授における秩序をうちだすこと」、第二段階「新しい教材を知らせること」、第三段階「現実の一般的諸性質を知らせること」、第四段階「教材の定着」、第五段階「能力及び習熟の発達」、第六段階「理論と実践の結合」、第七段階「教授結果の点検と評価」									井上弘講座現代公教育の論争点、教育内容・方法、教育開発研究所 昭和51.5.19		
141	バルト教授理論	意志・感情・思考の関与をそれぞれについてとりまとめた教授方法の基礎理論。									佐藤守、教授学基礎理論、1978、法律文化社		
142	複雑授業・マイクロティーチング	授業制作における力を向上させるために先行指導者の訓練。複雑授業は授業内容の全体的な理解とポイントへの慣れを目的としている。マイクロティーチングは、授業の複雑な場面、段階、指針に焦点を絞って行われることを目的としている。複雑授業とは、①授業をする者は、授業づくりの類、教材、教授活動、生徒の理解が不可欠であることを主体化させる。②職業的な訓練が、目的は不明確にする。③									柴田嘉弘、教育の方法、学文社、1995.4.65		
143	実技テスト	実際にその作業ができるのかを、実技を通して評価するテスト方法。									工業技術教育法、教研昭和47年11月21日		
144	学科テスト	紙筆を用いて、主に知識や理解について行うテスト方法。									工業技術教育法、教研昭和47年11月22日		
145	論文体テスト	学習内容や実践・実習の結果を総括して再組織し、要点の完全な理解や、これを発表する能力を測定する場合に効果的なテスト方法。									工業技術教育法、教研昭和47年11月23日		
146	空欄テスト	運用法、完成法、正誤法など、選択肢の中から一つの回答を選択させるなど、だれが教員としても同じ正解になるように設計されたテスト方法。									工業技術教育法、教研昭和47年11月24日		
147	絶対的評価	受験者が、教育的、社会的要求に対してどの位置にいるかを評価する評価方法。									工業技術教育法、教研昭和47年11月25日		
148	相対的評価	受験者が、受験者の集団の中でどの位置にいるかを評価する評価方法。									工業技術教育法、教研昭和47年11月26日		
149	総括的評価	訓練がどれだけ有効であったかの結論を出すために行う評価。例えば、学習者に対するテスト結果などから検討する。									R.M.ガニエ、L.J.ブリックスカリキュラムと授業の成、1994.7北大地書房		
150	形成的評価	訓練プログラムの価値を評価する。プログラムの実現や目標達成の可能性などに必要ない証拠を収集し、客観的な評価ができるかを検討し、必要ならば改善する。例えば、授業観察や授業実施の結果から、プログラムの改善点、困難点などを抽出したり、受講者からのプログラムに対する印象などを材料に検討する。									橋田敬一、教育における評価の理論、金子書房、昭和52年11月		
151	到達度評価	学習者の学習のプロセスにおける位置やその修正、フィードバックへの関心を中心にした評価。教育目標を明確にし、その目標への到達度で評価する絶対評価の一種。									小林一也、工業教育の理論と実践、実教出版、昭和58年10月		
152	カウンセリング	家庭や職場などの日常生活の中で、自分一人では解決できない問題を抱えて悩んでいる人のために、相談を受けて、助言や指導、援助を行うことです。教育訓練の技法としては、受講者の態度の姿勢や人間の成長を促進する技法。									能力開発技法一覽、アビリティンナー、アビリティンナーHP		
153	素質と環境	人間の発達が素質と環境の両者に起因するものであるという考え方。この考えから導いて、教育の効果は、万能で毛無能でもなく人間の発達を助成する作用であると考える方。									井上弘、講座現代公教育の論争点、教育内容・方法、教育開発研究所 昭和51.5.10		



調査研究資料 No.112

職業能力開発における訓練方法を考える

— 訓練対象者・訓練内容別各種訓練技法の比較検討 —

発行	2003年4月
発行者	職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター 所長 池本 喬三 〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1 電話 042-763-9046 (普及促進室)
印刷	システム印刷株式会社 東京都日野市高幡1012-13

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています

ISSN 1340-2404

調査研究資料 No.112
2003

THE INSTITUTE OF RESEARCH AND DEVELOPMENT
POLYTECHNIC UNIVERSITY